

アクティブ サポート京都

Active Support Kyoto

京都産業21のビジネス情報誌

12 Dec. 2003. No.003

<http://www.ki21.jp>



CONTENTS

中小企業テクノフェア2003	1
京都次世代医療研究会	4
異業種交流会紹介	5
インキュベーションセンター企業紹介	6
KIIC会員交流会	7
京都ビジネス交流フェア2004	8
受発注コーナー	9
設備貸与制度／創援隊交流会	10
行事予定表	11

がんばる企業を支援します。

財団法人 京都産業21

Kyoto Industrial Support Organization 21

新規取引先開拓、ビジネスチャンスにかけて、最新の技術を展示

「中小企業総合展2003・中小企業テクノフェア」京都府の参加出展企業

“ニッポン経済を支える屋台骨”の中小企業が一堂に会したイベントが、東京で開催されました。

2003年10月29日から31日に東京・有明の東京ビッグサイトで「中小企業総合展2003・中小企業テクノフェア」が開催されました。全国から1,000もの優良中小企業が参加して、熱のこもった展示会が繰り広げられました。

今回の東京会場では、京都府から出展参加希望の企業が多く、7社1グループが出展参加しました。

京都府から参加した企業は、特に「元気印!」の企業。その技術力、創造力、開発力等で注目を浴びています。会場の各ブースには、説明、商談にと来場者が絶えませんでした。

各企業は、この展示会をステップに新規取引先開拓につなげて、2004年に向けて大きな飛躍となるビジネスチャンスに期待をかけていました。



京都産業21ブース

参加出展企業



= 機械加工 =

丹後機械工業協同組合

<http://tango-tc.jp>

ガッチリ組んだスクラムで、高レベルの技術力を発揮

展示品は、丹後機械金属業界から出展された企業6社の製造した精密鍛造品から一貫生産による機械加工部品や同時5軸制御加工等による精密機械加工品。

丹後地方は、いま機械金属関連会社200社を数えるハイテク企業の集積地です。今回は「未来を拓くテクノロジー・丹後ハイテクランド」のテーマでブースを展開しました。

同組合からは、(株)積進、(株)徳本、(株)ミネヤマ精機、(株)大宮日進、(株)峰山鉄工所、(株)日進製作所の6社が参加、出展しました。

毎年参加していますが、東京(展示会の参加)でのメリットは、会場の規模が大きく、来場者もさまざままで製品説明から商談に入ったり、試作の依頼もあり、即決で実際の受注につながります。

東京会場への出展は、「営業はもちろんのこと全国から集まった企業との交流の場にもなり、情報交換も大事です」と(株)徳本、徳本晃一社長。

同組合には世界的な自動車メーカーを始めとして、ニッポンを代表する多くの企業から、その高い技術力と技術開発力に信頼をおかれています。



＝福祉・医療機器関連＝
株式会社健康科学研究会

血液検査の新しいトレンドとして、新聞・テレビ（情報番組）で紹介

展示品は、セルフメディケーションシステム（血液観察装置）。

この装置は、「注射で採血しないで、手軽に血液の流れが観察できる。」ことをねらって開発されて、話題となり注目されています。特徴は赤血球の成分に反応する光線で、指先の毛細血管が見える。モニター画面で観察、映像から老廃物のたまり具合をチェックします。健康器具の新たなトレンドとして新聞やテレビ番組（テレビ大阪のワールド・ビジネスサテライト（WBS））等のマスコミで紹介されました。ブース内では、装置を使って体験会を実施し、来場者は直接装置をつけてその場のモニターに映し出される血液を凝視していました。健康のため自己診断し、生活習慣病の予防に大いに効果を発揮する注目の装置です。



＝プラスチック加工＝
嶋倉電子工業
<http://www.kyoto.zaq.ne.jp/shimakuradenshi/>

オンリーワンのシート溶着、加工技術力に注目！

展示品は、SDK-FAB23W機（フッ素樹脂シート溶着機）、SDK-FA28機（インパルスタイプ）、SDK-FAWH38機（熱板方式）等。PEからPTFEシートまで、平面から栈付けのような立体物まで溶着できるインパルス温調タイプ式のヒーターシステムの機械。

同社は、「ユーザーのニーズに合った機械作り」をモットーに、昭和39年にオーダーメイドの高周波ウエルダーの製造を開始し、以後半世紀に渡りオリジナリティー溢れる高周波ウエルダーを製作してきました。ビニールからテントシート、ベルトの溶着、シート溶着と加工技術で広く他業種にわたり事業展開をしています。

ブースでは、嶋倉代表自らが機械の前に立って、わが国唯一の機械（SDK-FAB23W・フッ素樹脂シート溶着機）を始めとして、インパルスタイプ、熱板タイプなど、同社の新開発の機械から主力開発製品を説明していました。



＝機械加工＝
大和技研工業株式会社
<http://www.diana.dti.ne.jp/daiwaweb/index.html>

研究開発部品の試作開発から治具加工に対応

展示品は、高周波・マイクロ波・オプト（光）のコネクタ、フィルターケース、一般電子部品、三次元複合加工品、自動車エンジン部品、表面処理の精密部品等の自社試作品。

同社は、昭和52年に自動車の油圧ブレーキ関連部品の製造販売を目的として設立され、試作品・研究開発用部品など精密切削加工品の小ロット品を中心に独自製品を作っています。

電子部品は、高周波マイクロ波部品、コネクタ、電気、通信機器、自動車エンジン部品などを中心に研究開発用の試作品や関連治具などを製作しています。

加工では小物切削加工を得意として、切削加工では千分の一の精度を追求しています。治工具等を設計から製作まで一貫加工し、プログラム技術により三次元の複合加工にも対応しています。

同社は試作の話から注文を受けています。



＝素材加工＝
株式会社ビースパッタ
<http://www.be-sputter.co.jp>

薄膜表面処理に多くの実績と信頼

展示品は、スパッタリングによる金属薄膜表面処理加工品、I・T・O透明導電膜、電磁波シールド銅合金膜、TiO₂（酸化チタン）カラー膜、チタン膜、クロム膜、ステンレス膜、ニッケル膜、アルミ膜、ニオブ膜等。

展示会を営業・販路拡大の戦略のひとつとして、毎回出展参加している同社は、さまざまな基板材料（ガラス、セラミック、ポリカ、PET、アクリル、その他）の板物、成型品、立体物にナノレベルでの薄膜加工を可能にして機能膜から装飾品、試作から量産までを行っています。

同社は、薄膜表面処理のノウハウをベースにさまざまな提案をし、研究機関と提携しスパッタリング成膜の研究・技術開発にも努めています。研究開発段階での試作から小ロットの生産、さらに量産へと対応しています。

東京の展示会は、即具体的な商談につながる早さが魅力です。試作を受けたものが実際に売上に結びつく効果が大きく、今回の出展にもビジネスチャンスにつながると製品説明にも熱がこもっていました。



＝電機・電子機器加工＝

株式会社西嶋製作所

<http://www1.odn.ne.jp/nsjms/>

超精密機械加工からユニット組立・完成品を提供

展示品は、機構部・制御部・電源部等の組立品及びユニット組立品の写真パネルでの展示。機械加工部品（アルミ各種、ステンレス、樹脂各種）。

「もの作りで社会貢献」をテーマに同社は、メカトロニクス、エレクトロニクス、またオプトロニクスに携わり、科学計測機器をはじめ分析機器、医用機器、産業機器とフィールドを広げてきました。超精密、高品質、高性能、高いサービスをモットーに、部品1個から加工、完成品へと顧客満足度をより高くする総合的な生産管理システムをバージョンアップしています。

同社では、営業、品質管理、生産技術、製造3グループの6グループから成る製造部から、試作はもちろんのこと、難作・単品・珍品から少量までをJITにも対応できる生産体制を確立しています。

昨年も同展示会に出展し、注目を浴びました。



＝プラスチック加工＝

プロニクス株式会社

<http://www.pronics.net>

アジアに拠点をつくり、新たなステップ

展示品は、健康食品やプラスチック成形品の陳列やパネルを展示して各セクションを紹介。

全国で十数社を数える検査・測定専門会社のひとつとして知られている同社は、検査測定部門、金型部門、成形部門、ベトナム事業部の四つの柱に高い技術力と品質に重点を置き、商品管理の充実を進めています。

同社の事業は、モールド型の製作・施工し、インジェクション成形（試作、量産）し出来上がった製品の検査・測定を一貫システム（プロニクス独自のシステム）で行なっています。金型・成形・測定 of 三位一体形式をとり、昨年より、海外への挑戦のステップとしてベトナム事業部を開設しました。これを足がかりに輸入による健康食品の充実を図り、輸入雑貨の販売等新たな営業展開を進めています。

今回は、健康食品の「天然メシマコブ（キノコの種類）」も紹介しました。



＝福祉・医療機器関連＝

有限会社アクションケイ

<http://www.actionk.co.jp>

女性に優しい目線でアイデアを製品化

展示品は、沐浴シート「もっくよっく&バブチャン」、安産のための体重自己管理ソフト、多目的ソフト「アッピーネンネ」、シルバーエイジのためのお洒落グッズ「ネックレスクリップ」等。

同社は「広く女性をサポート」をテーマに！乳幼児用品の開発・販売、売、マタニティーのためのサポートシステムの開発・販売、シルバーエイジ用品などの開発、販売、看護師のためのパソコン講習を事業の4本柱としています。

開発製品には、乳児のデリケートな肌と環境を考慮してシートの素材にこだわっています。

- ① 現場（助産師）からのニーズやアイデアをもとに製品を開発。
- ② 女性が妊娠、出産、子育て期間を快適に過ごすための商品の開発。
- ③ 病院の医療現場でのニーズに対応できる商品の開発。
製品の開発には、このようなテーマで女性の細やかな目線を通して、製品化しています。

同社にとって、中小企業テクノフェア2003（東京会場）は、初めての参加になり、女性が好むレイアウトで製品の展示を繰り広げました。

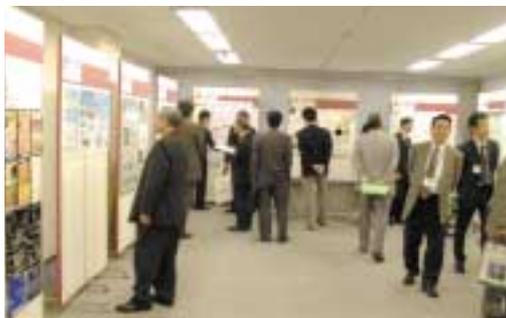
京都次世代医療研究会設立される

— 研究会への思いめざして「京都医療ビジネスフォーラム」開催 —

11月11日(火)～12日(水)、京都リサーチパークにおいて、京都医療ビジネスフォーラム(「京都次世代医療研究会」設立記念シンポジウム)を開催し、両日合わせて企業、大学関係者、公的機関関係者等400名以上の参加があり、改めて関心の高さが感じられました。

初日は、日経BP社先端技術情報センター長の宮田満氏の基調公演と(独)産業技術総合研究所ティッシュエンジニアリング研究センター長の三宅淳氏の特別講演のあと「産学公連携と最先端医療・機器関連ビジネス」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。

2日目は、京都府立医科大学大学院教授吉川敏一氏、京都大学大学院助手松岡達氏の講演及び京都大学大学院教授中原俊隆氏の特別講演をいただき、最後に「京都次世代医療研究会」の活動概要が説明されました。



①「**医用工学研究会**」(コーディネータ：京都府立医科大学大学院教授 西村 恒彦 氏)

平成16年1月21日(水)に「医用工学による診断・治療技術の新生」をテーマにシーズ・ニーズの現状について情報提供を行う旨説明。

②「**再生医療研究会**」(コーディネータ：同大学大学院教授 木下 茂 氏)

平成16年2月3日(火)に「再生医療の実際」をテーマに医学系大学、工学系大学、企業から研究成果や材料の今後の取り組み等の紹介を行う旨説明。

③「**看護・介護研究会**」(コーディネータ：同大学教授 種池 礼子 氏)

「創傷の修復と乳房の摘出後のリマンマ等(予定)」について情報提供を行う旨説明。(日程は調整中)

④「**予防医学研究会**」(コーディネータ：京都府立医科大学教授 吉川 敏一 氏)

平成16年1月27日(火)に「食品による疾病予防」をテーマに大学、企業の研究開発の現状について情報提供を行う旨説明。

また、講演の他に、京都府立医科大学や京都大学等11大学から41、公的機関から4、企業から4の計49テーマの研究を紹介するポスターセッション及び11社の医療機器・材料展示を行いました。

当財団では、今後、「京都次世代医療研究会」で、「医用工学」、「再生医療」、「看護・介護」、「予防医学」の各研究会活動を実施していきますが、医療分野で産学連携による共同研究、製品開発等に御関心をお持ちで、参加御希望の企業様には各研究会の開催の御案内をさせていただきますので、積極的な御参加をお待ちしています。

参加を御希望の方は、下記連絡先まで企業名、所属・役職、氏名、所在地、TEL、FAX、E-mailアドレス、企業URL、御希望の研究会名をお知らせください。

(財)京都産業21 KIIC会員交流会事業で運営している異業種交流会2グループを紹介

Kyooohoo!?

<http://kyooohoo.donet.co.jp/>



Kyooohoo!?!は、ITビジネスに興味関心があり、実際にITビジネスを行っている企業、これから行おうとしている企業が集まり、「京都であそぶ」「あやしい京都」「おもしろい京都」を基本コンセプトにした多様な活動をしています。

伝統産業を営むメンバー企業も多く、職人が認める「ほんまもん」をKyooohoo流に選び、Kyooohooブランドとして企画開発も手がけていく予定です。

さらに、京都の「ほんまもん」を世界市場に売り込むためのプロジェクトを立ち上げ、ロサンゼルスで開催された展示会「Japan Expo」に出展し、世界から見た「Kyooohoo流ほんまもん」への反応を分析することも行っています。また、来年8月にはニューヨークギフトショーへの出展を企画しています。

参加企業27社が緩やかに連携をとりながら、互いの得意分野を活かして、「ほんまもん」にこだわりつつ、京都の魅力を再発見し、売り込める力をつけていくことが今後の課題です。

4年目を迎えたKyooohoo!?!は、いま、おもしろいことをやってやろう、と遊び心満載で世界に目を向けています。

夢現の会

<http://www.joho-kyoto.or.jp/~mugen/>



夢現の会は結成11年を迎えます。この集まりの特徴をひとことと言うと、後継者の集まりであること。

ただ単に異業種が集まっただけでは、なかなか互いに刺激を与えあえる関係にはなれないものです。互いに互いのことを本気で考えられるグループになるには、まずメンバー間の信頼関係の構築が大きな鍵となっていたと感じています。夢現の会も、ここ3、4年前から、後継者がぶつかる問題、後継者の悩みに、互いが本音で応えられる体制がようやく出来たという状況です。

月例会を活動の中心として、ほかにモデル企業への訪問やセミナーなどを開いています。そのなかのひとつである経営革新の勉強会は、メンバー企業の経営状態などを講師に分析してもらい、その結果をテキストにし、互いが本音で意見交換ができる勉強会になっています。

新しい商品、プロジェクトを創ることに力点をあてず、異業種だから見える問題点と打開策、新しいアイデアなどが聞ける場、言える場であることを一番の目的として夢を現実のものにするため、活動を続けていきます。